

電子出版環境整備事業
(新ICT利活用サービス創出支援事業)
事業評価会
(電子出版の流通促進のための情報共有クラウド構築と
書店店頭での同システムの活用施策プロジェクト)

平成23年6月27日

代表機関:財団法人 出版文化産業振興財団

共同提案組織:日本書店商業組合連合会、(社)日本出版取次協会、(社)日本書籍出版協会
(社)日本雑誌協会、(株)博報堂、プライマル(株)

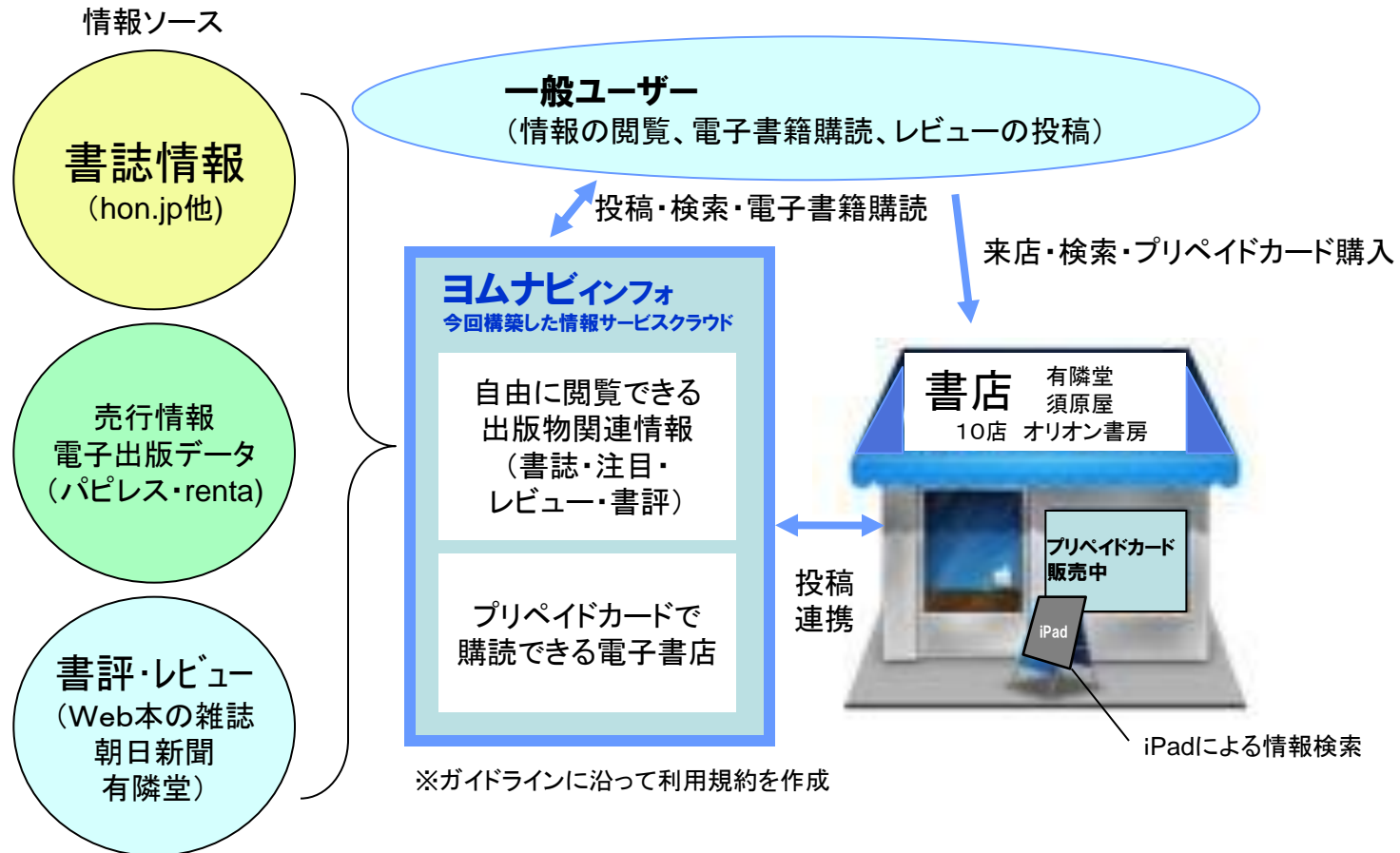
1 [電子出版の流通促進のための情報共有クラウド構築と書店店頭での同システムの活用施策プロジェクト]

(代表組織: 財団法人 出版文化産業振興財団)

共同提案者: 日本書店商業組合連合会、(社)日本出版取次協会、(社)日本書籍出版協会、(社)日本雑誌協会、(株)博報堂、プライマル(株)

課題 : 電子出版物の情報が流通しないため、一般の読者が電子書籍にどう手をだしたらよいかわからない状況がある。
仮説 : 電子出版物に関する情報環境の整備と、さらに書店でこれを利活用することが電子出版の市場拡大に繋がる。
目的 : 電子出版物の情報を誰でも手に入れられる環境整備を図り、その効果を実証する。
内容 : 紙・電子の出版物の関連情報のデータベース構築と書店店頭で利活用する環境をつくる。このような情報サービス事業のガイドランをつくる
成果目標: 出版物関連情報サービスの有益性の確認。書店での活用実証と電子書籍販売活用の展開。ガイドラインに添った利用規約の策定。

《 事業概要図 》



■ 実施体制

(財)出版文化産業振興財団	→ プロジェクトの全体統括
日本書店商業組合連合会	→ 実験展開書店のとりまとめ
(社)日本出版取次協会	→ 書誌データのとりまとめ
(社)日本書籍出版協会	→ 書誌データのとりまとめ
(社)日本雑誌協会	→ 本実験事業の広報支援
(株)博報堂	→ クラウドサービスの全体監理
プライマル(株)	→ システム構築・監理

■ 委員会	座長	東京電機大学出版局	局長	植村八潮
	委員	日本書店商業組合連合会	専務理事	大川哲夫
		(社)日本出版取次協会	事務局長	鈴木薫
	事務局	(株)インプレスホールディング	社長室室長	丸山信人
		(株)hon.jp	代表取締役	落合早苗
		(財)出版文化産業振興財団	専務理事	矢作孝志
		(財)出版文化産業振興財団	事務局長	中泉 淳
		(株)博報堂	ディレクター	藤本裕二

■ 実証内容

● 出版物関連情報クラウドの構築

電子出版物に関する書誌情報、売れ行き情報、書評を蓄積したデータベースを構築。

- ・読者が電子出版物関連情報を検索・閲覧できる。
- ・読者が出版物の評価情報(感想・レビュー)を投稿できる。

● リアル書店でのクラウド活用

リアル書店に情報端末を設置し、電子出版物の情報活用を図る。

- ・リアル書店は、出版物(紙・電子)の情報を顧客に提供できる。
- ・リアル書店は、プリペイドカード販売という形で電子出版物を扱うことができる。

● 電子出版物関連情報の共同利用のためのガイドラインの策定

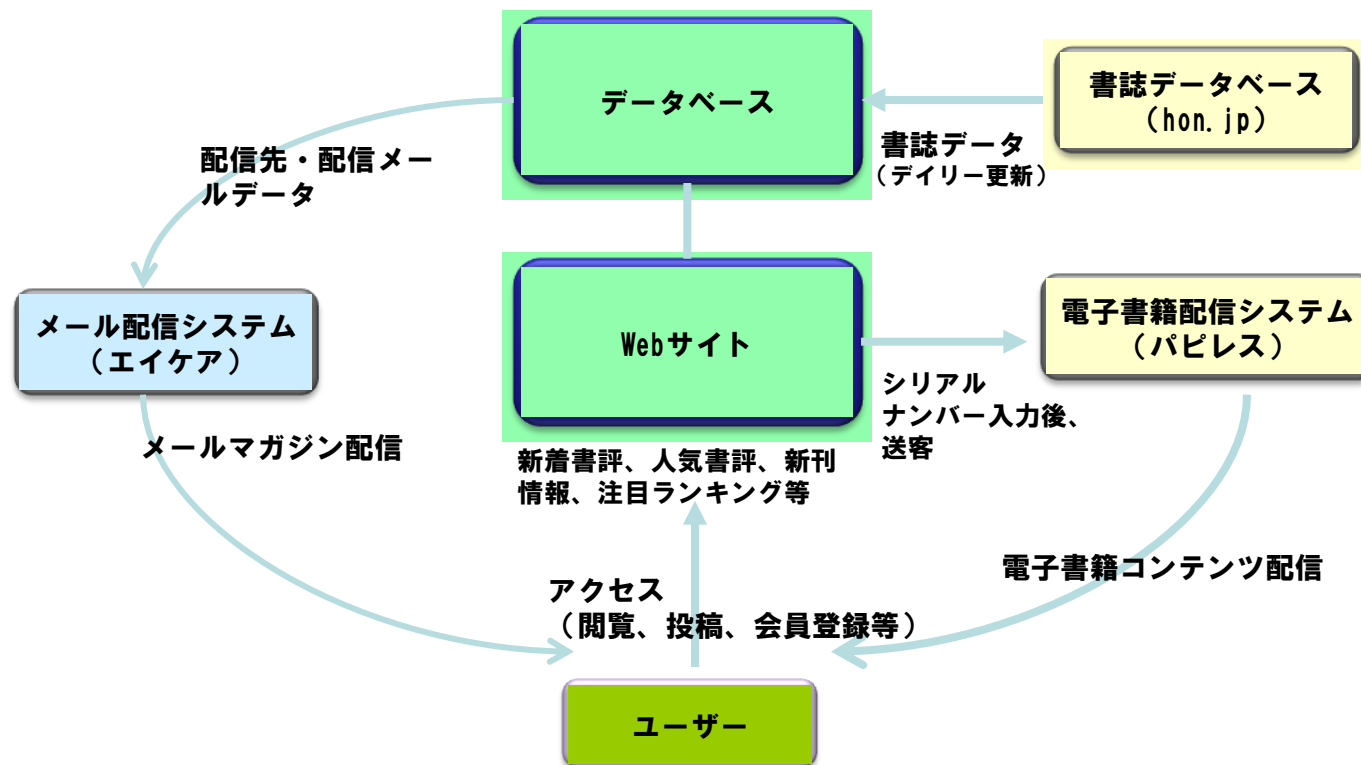
- ・電子・リアル書店、読者の出版物の情報ニーズ・利活用シーンを想定する。
- ・求められる情報の質・範囲・情報サービスの利用モデル案を策定。
- ・ガイドラインに沿った規約例として本実証実験サービスの利用規約を策定。

■ 出版物関連情報サービスの名称 :

『ヨムナビ.インフォ』(<http://www.yomu-navi.info/>)

サービスの内容を名称でわかりやすく伝えることを目指した

■ 模式図



■ システムの開発 :

出版物関連情報のサービスシステムを構築した。

サービス提供の仕組みは以下の通り。

- ①ユーザーが、パソコンや携帯でアクセス可能なWebサイトを開設。ユーザーは、会員登録、データの検索・閲覧、書評の書き込み、プリペイドカードによる電子書籍の購入ができる。
- ②データベースには、hon.jpから書誌データが、hon.jpやパピレスから売れ行きデータが、書店や新聞社や書評サイトから書評データが配信・蓄積されている。
- ③データベースからは、メール配信システムによって、ユーザーにメールマガジンを発信。
- ④電子書籍プリペイドカードによって購読された電子書籍は、電子書籍配信システムによってユーザーに配信される。

3 調査・検討・開発・実証内容

《 ヨムナビ インフォ のWeb画面 》

トップ頁

書評点数 約28,000件
電子書籍の書誌情報 約30,000点

電子書籍販売頁

プリペイドカードで購読できる電子書籍数 6冊
（小説・ビジネス書、コミック、雑学書など）

《 店頭活用の状況 》 2011年3月7日～25日



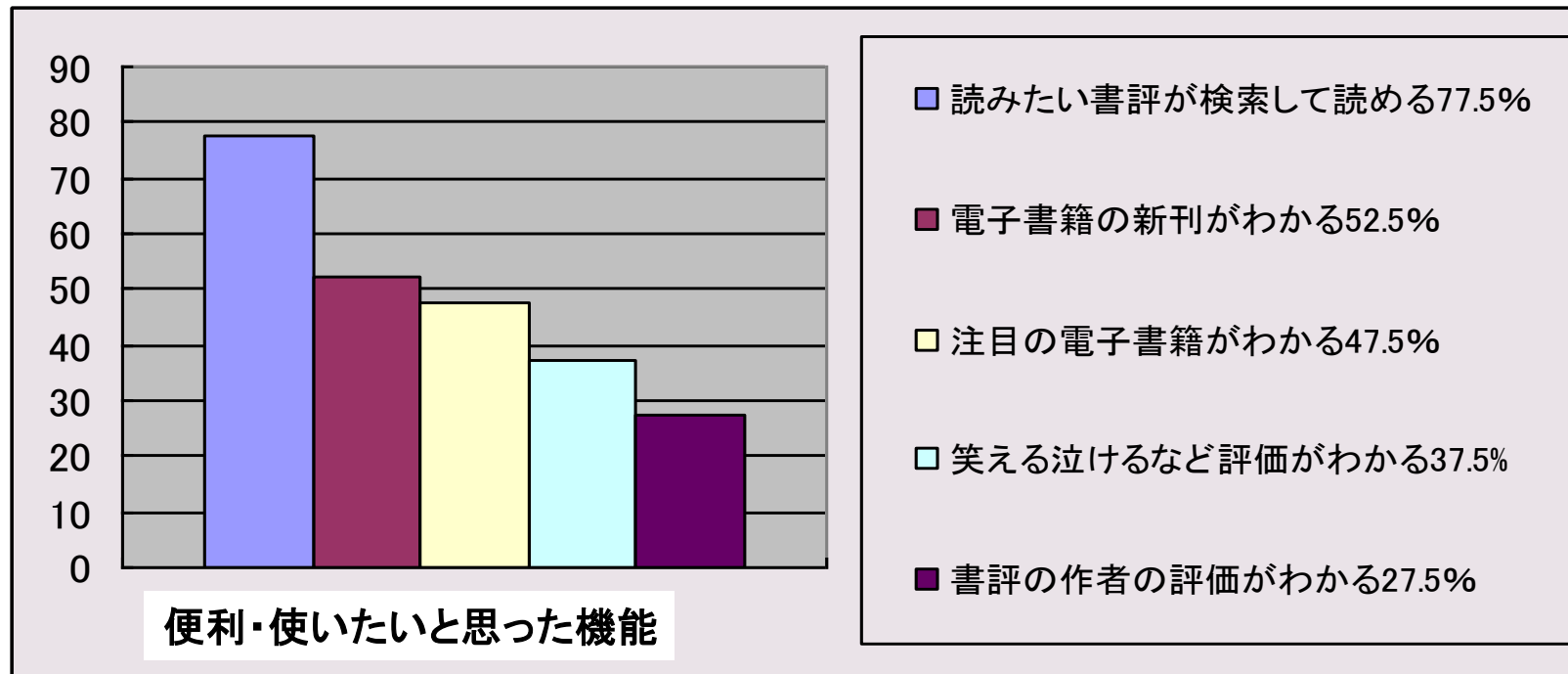
店頭設置機材イメージ
(利用機材 iPad)



設置状況(オリオン書房サザン店)
(オリオン書房3店、須原屋書店3店、有隣堂書店4店:合計10店)

■ 実証事業の結果

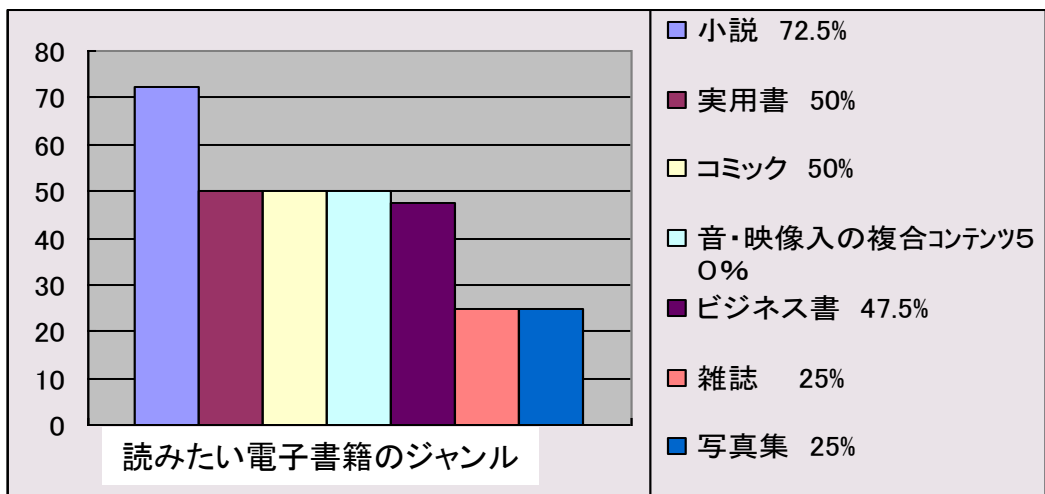
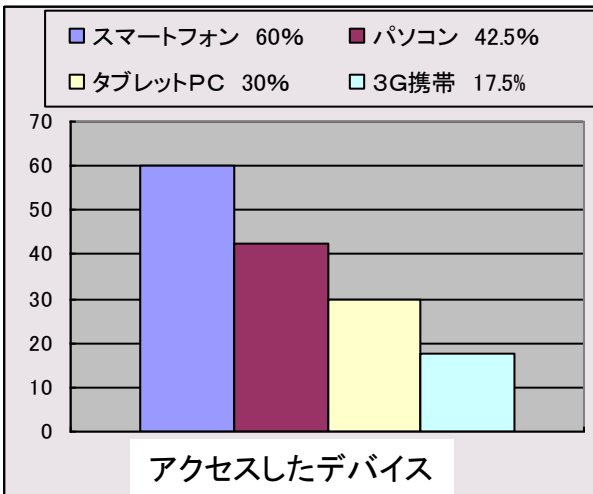
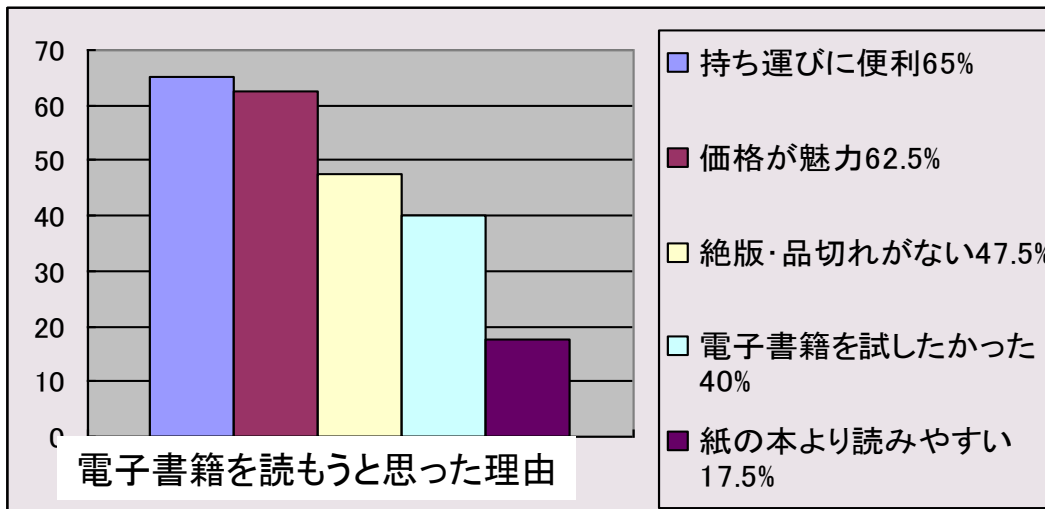
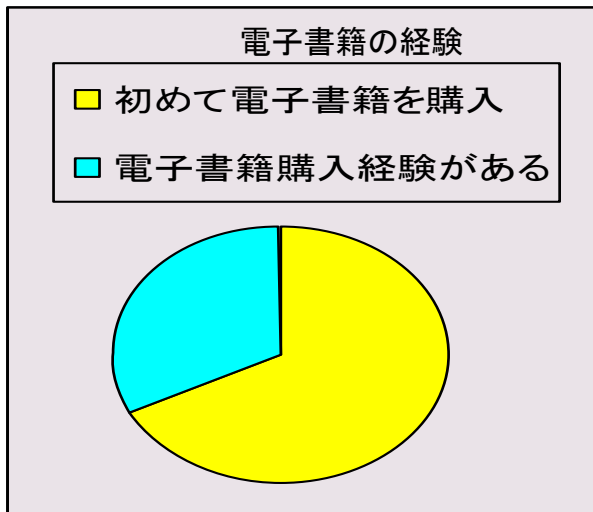
登録会員者	73名
記載された書評数	21
総頁ビュー数	13,140
ユニークユーザー数	1,007
1人当りの平均頁ビュー	7.07
1人当りの滞在時間	約 5分
リポート訪問率	47%



■ 実証事業の結果

- ・ カード販売数 93枚、電子書籍の販売数 32冊
- ・ カードの購入者中心:30代男性、7割以上が男性
- ・ プレゼントが25%あり、プレゼント需要が確認された。
- ・ 75%が「これからも電子書籍を利用してみたい」

購読書籍タイトル	だめんずウォ〜カ〜/倉田真由美	8冊
	原因と結果の法則 /ジェームズ・アレン	7冊
	日本史意外すぎる、この結末/歴史の謎を探る会	7冊
	サラリーマン金太郎/本宮ひろし	6冊
	通勤電車のみまつぶし本/平成暮しの研究会	2冊
	12人の優しい殺し屋/猫西ハナ	2冊



■ 実証事業の結果

●リアル書店の主な意見

- ・読者サービスとして有効だと思う。特に、自前で検索システムを持ってないような規模の書店にとっては有効である。
- ・評価情報や評判は、出版物の売れ行きに大きな影響を持つ。いわゆる書評よりも、感想やレビューのような簡便なものが、参考にされる傾向がある。
- ・リアル書店にとって電子出版物は共存していくべきものだ。ただ、紙と電子の値段があまりにも違うと困るし、最初はプリペイドカードで購入しても、慣れるとネットで購入してしまうのではないかという不安もある。
- ・リアル書店も、読者のニーズや出版物の変化に対応して、変わっていくことが求められる。リアル書店の利益がきちんと計算されていれば、新しい試みには積極的に挑戦していきたい

●電子書店の主な意見

- ・リアル書店は電子書籍販売に親和性の高い場所であり、今回の取り組みには期待が持てる。
- ・レビューやクチコミは、その発信者に信頼が置ければ大きな影響力を持つので、今回の取り組みの方向性は間違っていないと思う。

●出版社の主な意見

- ・プリペイドカードによる電子書籍の販売は、面白い取り組みなので注目している。ただ、出版社にとっては、著者の納得を得ることや、価格設定など、検討すべき課題は多い。

■ 出版物関連情報の共同利用にあたって配慮すべき事項

① 著作物として扱う、または許諾が必要な出版物関連情報

- ・書誌情報:分類、整理等に関して事業者が固有に設定し、公開を認めない情報
- ・評価情報:一般及び著述家による書評・感想、関係者による推薦・広告・レビュー・書評

② 開示される情報の透明性の確保と取り扱い

- ・情報の修正、部分引用・脱稿等改変の禁止
- ・売れ行き情報:発表者、発表の時期、その範囲等の明確化と明記
- ・関係者の紹介なのか、自発的で自由な意見であるのか、一定の判断情報が示される
- ・出典・引用がある場合、その引用元・出所を明らかにする

③ 情報利用にあたっての著作者・発表者の権利の扱い

- ・(情報共有サイトの性質上)対価なしで開示・閲覧されることに 対しての権利者の同意
- ・商業的利用に関しての権利者の許諾(権利者毎に一括又は個別で許諾設定をする)
- ・直接アフィリエイト収益が発生する場合、権利者に一定の対価を保証
- ・自らの投稿はいつでも削除できる
- ・記入者の立場・考えにより扱いの設定が変更できる(開示期間の設定、商業利用の不可など)

④ 事業運営にあたってのサービス事業者の権利

- ・事前に許諾のある投稿・著作についての商業的利用
- ・公序良俗・他への権利侵害その他問題があるものとみなされる投稿の削除
- ・分析等のマーケティング的な情報の活用
- ・クラウドサービス上での広告・プロモーションの展開

⑤ 利用者の保護(安全対策)

- ・クラウド事業者の個人情報保護に関する取り扱い規定の開示(安全対策)

※ガイドラインに沿って
実証事業『ヨムナビインフォ』の
「利用規約」「サービスポリシー」
「プライバシーポリシー」を策定。
同様の情報サービス事業の参考
にできるようにした。

認められた事業価値

- ・ 評価情報を中心とした出版物関連情報サービスの有益性
- ・ 書店を舞台とした情報発信・利活用の可能性
- ・ 書店でプリペイドカードなどを通じた電子出版物取り扱いの可能性

期待できる波及効果

- ・ 書店員の書評を利用した読書コミュニティで書店・電子出版市場の活性化を図る
- ・ 健全なレビュー・評価情報が良質な出版コンテンツを生み出すパワーとなる
- ・ 電子書店とリアル書店連携による新しいプロモーションのスタイル開発

継続的な事業化のために

- ・ サービス・機能の拡充
- ・ 運営資金の調達
- ・ 運営組織の検討、関係業界の理解と協調

開発・実証成果内容	平成23年度	平成24年度
出版物関連情報の 共同利用ガイドライン	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインに沿ったとして「ヨムナビインフォ」の利用規約を提示 ・JPICのHPにガイドラインを掲出 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業化モデルにのっとり利用規約を改定 ・JPICのHPにガイドラインを掲出（規約例は最新のものに改定）
出版物関連情報の 情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年3月まで現サイトを維持。 ・この間に、サービス継続のためのビジネスモデル、事業体のあり方などを検討する。 	検討された新しい情報サービスに移行
書店でクラウドを活用した展開	上記の継続事業化の中で以下の事項を検討する <ul style="list-style-type: none"> ・書店連携のあり方 ・書店を中心とした読書コミュニティのクラウド活用 ・電子書籍販売のための具体的なモデルを検討 	検討された新しい書店連携策を書店に提案